

令和8年7月27日

全国学校栄養士協議会 御中

研究会 p-ogiso モデル推進事務局

(株)おぎそ 役員 小木曾 順務

プラ水平リサイクル支援願い（コンソーシアム形成のお願い）

平素より、全国の学校給食の充実と食育の推進に多大なるご尽力を賜り、深く敬意を表します。
この度、私ども研究会 p-ogiso は、学校給食の PP・PE プラスチック資材の水平リサイクルモデル（p-ogiso モデル）を全国的に構築するため、貴協議会に対し下記の通りご支援をお願い申し上げます。このプラ水平リサイクルモデルは全国自治体の環境政策・教育政策の双方に寄与する仕組みです。

- 学校給食法の目的条項（食育・衛生管理）
- プラスチック資源循環促進法（プラ新法の許認可取得で全国回収が可能）
- 環境省の一括回収モデルに整合

政令・中核都市の教育委員会が連携し本モデルを創り上げることは、日本の資源循環政策と学校給食の未来を同時に前進させる大きな一歩であり、また、日本の循環型社会の新しい標準モデルとなります。

1. 学校給食は全国最大規模の「単一素材排出者」である

学校給食は全国で約 1,000 万食／日。調理用手袋・ポリ袋・ラップ等の PP・PE 素材は単一素材であり、水平リサイクルに最適です。しかし現状では、ほぼすべてが焼却処理され、資源として循環していません。学校給食は、以下の3点から全国制度化の起点として最適な領域です。

- 排出者が明確
- 素材が均質（PP/PE）
- 汚れが軽度で洗浄不要 という、全国でも稀有な「循環型資源の排出源」です。

2. 給食サービス協会との連携で全国回収が可能

全国の学校給食は「同じ衛生基準・同じ調理工程・同じ資材構成」で運営されています。つまり、一度モデルが確立すれば、全国展開できる唯一の公共インフラであり、食育と循環教育を同時に実現できる。横浜市が導入したデータインフラ「pool」技術で、学校給食の排出量・循環量・CO₂削減量をデータ化し、可視化することで「循環型食育」という新しい教育価値が生まれます。

○ 行政メリット

- 環境政策の成果を定量化
- 学校ごとの排出量を把握
- 給食センターの物品管理効率化
- 食育教材として活用可能

○ 学校メリット

- 児童が「循環型食育」を体験
- 自分たちの行動が資源を生むことを理解
- SDGs 教育の具体化

ご存知の通り、弊社は、給食サービス協会の賛助会員です。(株)おぎそが開設した研究会 p-ogiso（海ごみから革新的な社会を考える会）の調査では、区市教育委員会の指導の下、全国の給食サービス事業者が連携すれば、おぎそ製 Re-食器の全国普及と同様に、プラ水平リサイクルも全国展開が可能です。

3. 津市のデータベースを千代田区（12 校）で。素材調査を全国モデル化（予定）

ここまでの実情調査を津市教育委員会で説明し、現在、素材構成・年間使用量・排出量の調査をお願いしていますが、この津市版作成データを基に、千代田区（小中 12 校）においても調査をお願いし、全国で同様の回収が可能かを検証する「全国モデル自治体」として位置づけようと考えています。

- PP/PE 手袋 *ニトリル手袋は異素材、よって、別途回収
- ポリ袋
- 食材包装材など

4. 政令市教育委員会への挨拶を開始

p-ogiso は、水平リサイクルの全国制度化に向け「学校数が多い・給食センターが集約されている」複数の政令市教育委員会へ既に挨拶を開始し「学校給食の排出者責任を果たす循環モデル」として高い関心を得ています。ここまでの調査によると、区市教育委員会の指導のもと、給食サービス協会と連携すれば、おぎそ製 Re-食器の全国普及と同様にプラ水平リサイクルも全国展開が可能です。結果、研究会 p-ogiso が目的とする廃プラ素材を希求する再生プラ工業会にも、全国回収が可能であることが紹介でき、この資源循環の延長線上にある海洋プラスチック問題を解決する仕組みづくりに必要な以下の知見者（学术界・産業界・技術界）を集めた「コンソーシアムの設立」に繋がります。

5. 学術・産業界によるコンソーシアム形成の必要性

全国制度化には、教育・行政・産業・学術が連携する「学校給食プラ資源循環コンソーシアム」の設立が不可欠です。現在に至るまで、省庁始め、以下の専門家・団体より助言・協力を得ています。

○ 内閣府・国交省・経産省・環境省・文科省・産総研など

循環資源政策・海洋環境政策・食育政策担当部局

○ 学术界

1. 石井一英 教授（北海道大学） 資源循環・材料工学の専門家
2. 八尾 滋 教授（福岡大学） 再生樹脂づくりの専門家
3. 岩瀬 靖彦 教授（大妻女子大学） 学校教育・食育の専門家 ほか

○ 産業界・技術界

4. 西澤 民夫 氏（M&A キャピタルパートナーズ社外取締役／科学技術振興機構助言者）
産業連携・技術導入の助言
5. 日本船舶技術研究協会（専務理事 加藤光一 氏） 物流・回収ルートの最適化
6. 日本プラスチック工業連盟（会長：いその株式会社） 国内プラ産業との連携基盤
7. 全国産業資源循環連合会（専務理事 室石泰弘 氏） 廃棄物行政・資源循環政策の専門家
8. 全日本船舶職員協会 全国海上輸送の知見（※私は 2018-2024 年まで理事を務める）
9. ほか各位

これらの専門家・団体は、全国回収・再生材化・物流・制度化の全工程を支える基盤となります。

6. 全国学校栄養士協議会にお願いしたいこと

貴協議会は、全国学校給食の専門職能団体として、本取り組みの成否を左右する極めて重要な立場にあります。よって、以下の4点についてご支援をお願いします。

① 全国的な素材調査の実施

全国へ展開するため、各自治体での事前調査（PP/PE 使用量・排出量）の把握にご協力ください。

② 分別回収の現場運用に関する助言

栄養士各位の知見に基づき、現場で無理なく実行できる分別・洗浄方法の検討を「再生樹脂知見者と手袋メーカー・食器洗浄機メーカー」が協議しプラ洗浄機（小型）を開発する必要があります。

③ 食育への統合（データインフラ技術ソフト「pool」を活用）

排出量・循環量・CO₂削減量を可視化することで、循環型食育を全国に広げることができます。

④ コンソーシアムへの参加

学術・産業・行政と連携する「学校給食プラ資源循環コンソーシアムづくり」への助言・参加を文科省とご検討ください。

7. 裏付けされた水平リサイクル技術

○**東京パック（調布市）**：使い捨て手袋メーカー東京パックは、製造工程で発生する「未使用のPE 端材」をマテリアルリサイクル（再生材化）しています。

重要なポイント

- ・ 製造工程で出る端材は 汚れゼロの高品質 PE
- ・ すでに再生材として再利用しており、技術基盤が確立
- ・ 学校給食から回収される PE（手袋・袋）も同じ素材構成
- ・ → 同じ工程で再生材化が可能

つまり、「手袋を作る会社が、手袋の素材をすでに再生している」という事実が、水平リサイクルの実現可能性を強力に裏付けています。

○**萩原工業（倉敷市）**：ブルーシート大手萩原工業は、再生 PP/PE を使った エコマーク認証ブルーシートを既に商品化しています。

重要なポイント

- ・ 再生 PP/PE を使った製品で エコマーク認証を取得済み
- ・ 再生材の品質・安全性・強度が公的に認められている
- ・ 学校給食で排出される PP/PE と素材構成が同じ
- ・ → 給食由来 PP/PE を分別することで、萩原工業の再生材ラインに乗せられる

つまり、「再生 PP/PE を使った公的認証製品が既に存在する」という事実が、給食由来 PP/PE の再生材化の安全性を保証します。

○**いその㈱（稲沢市）**：水平リサイクルの中核となるのがいその㈱の再生ペレット技術で、混ざり物の多い廃プラを均質な再生ペレットに仕上げるという、国内でも希少な高度技術を持っています。

いその㈱の強み

- ・ PP/PE の選別精度が高い・洗浄・脱水・乾燥の品質が高い
- ・ 二軸押出機による安定した熔融・脱ガス
- ・ 異物除去（スクリーンチェンジャー）の精度が高い

- MFR（溶融流動性）をロットごとに安定化・臭気・異物・色調の管理が優れている

○福岡大学 八尾滋教授：安心・安全な再生樹脂の製造指導

再生樹脂の第一人者である福岡大学 八尾滋教授は、再生 PP/PE を「安心・安全に給食現場で使える樹脂」として製造するための技術指導を行っています。

八尾教授の指導内容

- 再生材の衛生基準・食品接触材としての安全性
- 給食現場での使用適性・再生材の物性評価
- 再生材を使った手袋・袋の安全性評価

結論：八尾教授の指導により給食現場で使える安全な再生 PP/PE 樹脂を製造することが可能です。

○再び、給食備品として戻すことが可能

以上の4つの技術基盤を統合すると、学校給食で排出された PP/PE は、以下の流れで水平リサイクルが成立します。

水平リサイクルの流れ（実際に可能な工程）

1. 学校給食で使用された PP/PE（手袋・袋・内袋）とニトリル手袋を分別回収
2. 給食サービス事業者が集約して回収
3. 東京パックの再生材ラインでマテリアルリサイクル（既存の PE 再生技術をそのまま活用）
4. 萩原工業の再生材製造ラインで品質安定化（エコマーク認証レベルの再生材品質）
5. 八尾教授の指導に基づき、食品衛生基準を満たす再生樹脂に調整
6. 再生 PP/PE を使って、手袋・ごみ袋・内袋を再製造
7. 再び学校給食現場へ供給（水平リサイクルの完成）

*ニトリル手袋は、メーカーのショーワグローブ(株)と協議が必要

8. 結び

学校給食は全国で最も均質な PP/PE 排出源であり、この PP/PE は確実に水平リサイクルできる。ここから始まる水平リサイクルは日本の資源循環モデルを根本から変える力を持っています。ぜひ、全国学校栄養士協議会としてご検討下さい。

以上